

早稲田大学 人間科学部 世界史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式
試験時間	90分
特徴・その他	設問の数は昨年の69問から75問(一昨年と同数)に増加。昨年復活した地図問題も今年は出されなかった。大問Ⅲの日本関係史は世界史の問題としては異色の出題。全体として難易度は昨年と同じ。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
Ⅰ	イスラーム文化	設問Xの空欄補充は易しいが、設問Yの正誤判定のポイントには細かいものが目立つ。①の『千夜一夜物語』関係は標準的。②-aのアラビア語はハム系ではなくセム系、bは13世紀ではなく9世紀が正しい。cはスンナ派とシーア派が逆転。③は根拠が『コーラン』とわかればあとは「哲学」の有無で解決できる。固有の学問と哲学は今年の13日の国際教養学部でも出題されていた。④のガレノスはマルクス＝アウレリウス帝の侍医でギリシア人。⑤-aのアカデメイアはプラトンの学園、bの「知徳合一」はソクラテスの主張。⑦-aの「半円状のアーチ」はロマネスク式に該当。⑨-cはカーディーが誤り。神秘主義教団の一つにカーディリー教団があるが、その名は裁判官であるカーディーではなく創始者アブド＝アルカーディル＝アルジラーニーに由来する。	一部難
Ⅱ	インドの古代と近現代	設問Xはやさしい。(3)-aのコルカタはカルカッタの最近の表記。設問Yは選択肢が五択で文章量が多く疲労感をもよおさせるが、正誤判定のポイント自体は比較的とりやすい。①-ウが明確な誤り。②-ウの「極端な不殺生」はジャイナ教に該当。⑤-オはシャープール1世ではなくアルダシール1世が正しい。⑥-オの天師道は五斗米道の別称。⑧のローラット法公布は1919年3月。⑨-オの日独防共協定は1936年11月に締結。⑩-ウはヒンドゥー教とイスラーム教が逆転。	標準
Ⅲ	日本とその対外関係・対外政策	設問Y-②の倭の五王はつらい。③-dは「両税法」が目にとまれば解決。④の西太后は清末、呂后は前漢高祖の皇后。楊貴妃は安史の乱関係者なので白村江には無理がある。⑥-bのドイツは1871年のドイツ帝国成立以前なので不適当とわかる。⑨-dはヌルハチではなく太宗ホンタイジが正しい。	やや難

番号	出題内容	コメント	難易度
Ⅳ	中世のキリスト教と教会	設問 X は易しい。設問 Y の①は五賢帝をそらんじていけば即答できる。②－b はパウロでなくペテロ、③－d の教皇はカリクストゥス 2 世が正しい。この人物は今年の文化構想と法の 2 学部でも出題されていた。⑤－b はフィリップ 2 世、⑥－a はケルト人が正しい。⑦－a は法学部ではなく神学部、さらに d はスペインではなくイタリアが正しく正答は 2 つ存在する。⑧・⑨・⑩は易しい。	標準
Ⅴ	19～20 世紀の欧州	設問 X は易しい。設問②－d のエベールはロベスピエールによって粛清された山岳派内の急進派。仏革命の反キリスト教的性格を象徴する人物である。③－d は消去法で対応。⑤－b と c はギリシア独立戦争、d は露土戦争に該当。⑥－a のトルコマンチャーイ条約はカージャール朝とロシアの条約。⑦－d は 1856 年ではなく 1840 年が正しい。1856 年はアロー戦争開始の年である。⑩－d のヒンデンブルクは追放されたのではなく、在任中に死亡している。⑪－c のイタリアの王制は 1946 年に国民投票で廃止された。	標準

〔総合コメント〕

設問 X の空欄補充問題は易しいものが大半なのでここでしっかり得点したい。実力が試されるのは設問 Y の正誤判定問題。まず克服しなくてはならないのがそのボリュームである。個々の問題に限れば、あれやこれや考えて、消去法も含めて解答はそう難しくないかもしれない。しかしそれは時間にゆとりがあって初めていえることである。あわただしく問題を解かねばならない状況ではできる問題もできなくなってしまう。普段から同程度の問題をこなして時間に余裕をもつてのぞめるようにすることが先決である。例年は年代を問う問題に難問が目立ったが、今年の年代は簡単だった。年代は来年もまとまった出題が予想される。しっかりとした対策をとりたい。